

令和5年 第4回九州森林管理局国有林材供給調整検討委員会 【議事概要】

1 日時及び場所

令和6年3月19日（火）14時30分～17時05分

九州森林管理局 2階 大会議室

2 議題

- (1) 木材の需給動向等について
- (2) 国有林材供給調整の必要性等について
- (3) その他

3 議事概要

【委員会の検討結果】

現時点での供給調整は必要ないが、原木の出材や価格の動向、工場等の原木仕入れ状況、木材製品の出荷や価格、輸入材の動向などを注視しつつ需給バランスを見極めながら、計画的な供給に努めるべきである。

【主な意見】

- 2023年の国産合板生産量は、前年に比べると87%と減少しており、出荷量も前年に比べると87%と減少した。

2023年の国産合板、輸入合板を合わせた国内合板供給量は451万m³と過去最低であり、これまでの最高の2006年と比べると半分ぐらいに落ち込んでいる。

コンクリート型枠用合板は、現地高・円安で輸入コストは高くなっているが、需要が少ないためコスト割れの価格が出ているような状況であり、国産製品（針葉樹）の売りに苦戦している。

国産原木の購入については、スギ・ヒノキともに入荷量は順調であり、今の生産量を保っていただければと思っている。

- 紙の出荷量については、2023年1～12月の累計で前年比-7.1%、紙、板紙ともに前年割れの状況にある。今年1月の国内出荷量は前年比が-8.5%で、前年に比べても減少幅が増えている状況になっている。

輸出については、昨年11月から2桁増となっており、製紙メーカーは輸出に力を入れて減産幅を減らす方向で動いている。

製紙ボード用チップの状況について、ボードメーカーの中では、国産材を使ってアップルし販売しているというメーカーがあり、新たな需要が出てきている。

原木の輸出について、中国の状況に左右され、不動産市況が非常に悪いということで土木・建設ともに非常に低調で木材需要は減っているという状況である。

国産材についてはロッドが小さいため、中国の輸入業者は取り扱いの小回りが利くと

ということで、相変わらず国産材については非常に引き合いの強い状況が続いている。

燃料の丸太については、九州管内でも新たなバイオマス発電所が稼働を開始したことで、その発電所の近辺では局地的に集荷競争が起こっている。

高い価格の原木を燃料としている小規模の発電所は、かなり採算が厳しくなっていると思っている。

国有林材の供給調整について、C D材は需給ひっ迫の状況が継続しているので、何とか国有林からの供給量を増やしていただければと思っている。

- 製品の市況は、例年明けから2月・3月と臥し起きということでかなり冴えないというのが例年の傾向である。

1棟当たりの家のサイズが少し小さくなったり、二階建てが平屋になったりというような影響が木材需要に少し影響していると思う。

色々なところでの価格交渉において、木材はどちらかというと値下げ交渉が結構あるが、一般的には世の中すべて物価高ということで値上げ交渉をしているが、木材だけがなぜか値上げ交渉の仲間に入っていない。

今の市況から見ると、やはりこの製品価格を支えてくれている唯一のものは為替だと思っている。

ここ1年、非常に原木価格が安定的に推移した1年ではなかったかと思っている。

国有林材の供給調整について、もちろんC材を増やすということができれば一番良いが、簡単にいかないのが現状のまま推移しながら新年度も計画に沿って早めの出材をお願いしたいと思っている。

- 製品価格の荷動きは、構造材を中心に悪く、2～3月に入って極端に悪くなってきたように思う。

公共工事関係で大型物件も年度末ではほとんど動いていないような状況である。

製品価格は、原木価格が高止まりしているのが、大手製材所は生産調整を行ってどうにか価格を崩さない努力をしているようである。

原木価格が下がらず又天候も悪くないのに、宮崎県や鹿児島県も出材がそんなに増えてきていない状況である。

C材については、値上がりして価格も強い。

国有林材の供給については、できるだけ多くの出材をお願いしたいと思う。

- 弊社の2023年の取扱量は、対前年比で99.8%となった。資材高騰、住宅着工数の減少や色々なものが影響して弊社の強みである各システム協定販売においても各方面の減産体制の影響を受け、全体的な目標数字は若干落とした。

市況動向については、2023年の11～12月で見ると、前年対比（2022年）91.7%となっている。いくらシステム販売といえども市況の影響を受けている。

流通状況としては、今年の1月・2月九州全域をみると、出材量にばらつき感はあるが価格に関してスギが強含み、ヒノキが横ばいの状況である。製品の動向により、相当厳しい状況にあって、現状維持、若干数量の価格の値下げ要請も見え始めている。

国有林材の生産供給調整については、今後も現在の安定した生産供給体制をぜひ実行していただき現状計画遂行をお願いしたいと思っている。

- これまで宮崎県内では、相場の上昇とともに材の出荷量が増加してきたが、昨年より出材不足が続いている。

素材生産現場の奥地化や流通トラック運送の問題などが出材に影響しており、今後林業地帯では更なる林業技術の研鑽や機械、道具などの改善が必要である。

地域の民間山林においては山主不在がかなり見受けられ、素材生産業者との契約は減少傾向にある。

国有林材の供給について、現段階では出材量はこれまでと変わらずということだと思える。

- 森林組合系統も、ここ3～4年出材が少しずつ減ってきている。

入荷量は年が明けて1～3月と月を追うごとに増えてきているものの、到底昨年の量には追いつかないということで前年比69%まで落ち込んできている。特に個人の業者の材が非常に減ってきているところである。

輸出向けの低質材は、多くの業者で取り合いをしており一部競争が激化しているところもあって、低質材の底値を支えてくれているような状況である。

国有林材の供給については、今後も市況を注視していただき、計画的な供給をお願いしたいと思っている。

- プレカットの受注量は、九州の大手のところで30%落ちている。中規模から小規模にかけては50%以上減少しているようなところもある。

今年の見通しは、4月は3月とあまり変わらないような状況で動くのではないかとと思うが、来年、建築基準法と省エネ法の改正があり、これに向けて少し秋は若干の駆け込みみたいなものが起こるのではないかと予想している。

欧州材のホワイトウッドのラミナ量が少なく、生産遅延等により2Q（第2四半期）の4月積みはスキップするメーカーが大半となっている

また、フィンランドのストライキも重なり夏場から秋にかけては欧州材が入荷しにくい状況にあるので、スギの柱、間柱等に少しチャンスが出てくるのではないかと考えている。

国有林材は、このままの供給量を保っていただけたら思う。